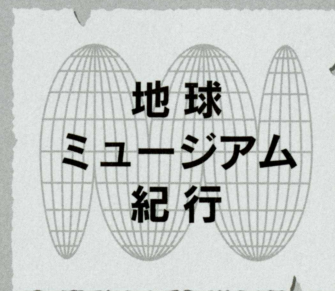


砂漠のなかの グローバル楽器博物館

寺田 吉孝 (てらだ よしたか)

本館民族文化研究部



楽器博物館／アメリカ

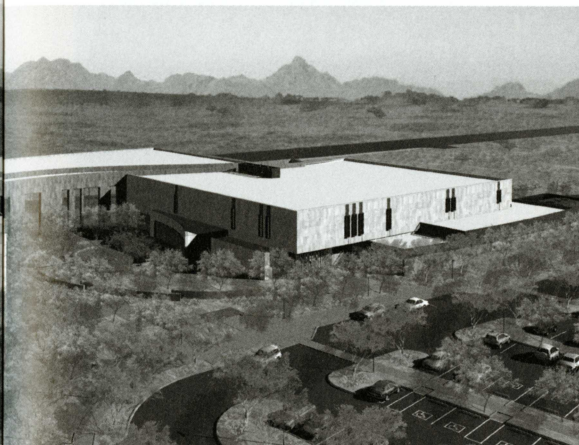
アメリカ合衆国の南西部にあるアリゾナ州に大規模な楽器の博物館を建てる計画が進められている。その名もやはり「楽器博物館 Musical Instrument Museum (略称MIM)」。二〇一〇年に開館の予定である。楽器コレクションといえばバリの音楽博物館やブリュッセルの楽器博物館などが有名であるが、収蔵品には地域的な偏りがある。スミソニアンやメトロポリタン博物館にも数多くの楽器があるが巨大なコレクションの一部ではない。MIMは「世界初のグローバル楽器博物館」という壮大で野心的なキャッチフレーズのもと、世界中の楽器を網羅的に展示することを目指している。

館長のビル・テワルトさんは音楽や楽器の専門家ではなく、ラテンアメリカを研究する文化人類学者である。長年ピッツバーク大学で教鞭をとったが、二〇〇二年にカーネギー自然史博物館の館長に就任。そこでの運営の手腕が評価されて、昨年MIMの館長に抜擢された。自分の仕事は「資金集め」と笑うが、すでに三人

の民族音楽学者をスタッフに雇い入れ、開館に向けての体制作りを着々と進めている。

MIMは開館までに五〇〇〇点の楽器収集を目指しており、その調達が目下のところいちはんの課題である。すでに二二〇〇点におよぶ大型コレクションを一括購入しているが、ゼロからの出発であるから先は長い。そのため世界各地の博物館とネットワークを作り、資料の貸借を容易にすることも展示活動を続けていくうえで重要である。今年の五月中旬にテワルトさん夫妻が来日したのは、日本の博物館や楽器製作会社などとの協力関係を作るためだった。

MIMの展示の特徴は、楽器をモノとしてのみでなく、むしろ文化として紹介しようとする姿勢にある。展示されている楽器の音を聴けるようにするだけでなく、楽器の持ち方や演奏法、演奏される場などを写真や映像を使って紹介する計画だ。また、地域別にわけられた展示場のほかに、ライブ用のホールや録音スタジオ、楽器体験



MIMの完成イメージ図

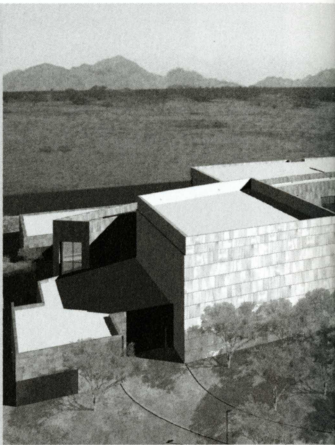


松園館長にMIMの概要を説明するテワルト館長

東南アジア展示場で
オープン展示を見るテワルト夫妻

コーナーから楽器作りを見学できる工房にいたるまで、音楽と楽器について多角的に楽しみながら学ぶことができる仕掛けがそろっている。ちなみに、「文化としての楽器」というコンセプトは、いま民博で準備を進めている新しい音楽展示にも共通している。今後このコンセプトをいかに実際の展示として実現していくかについて議論し合うことは双方にとって有益であろう。

MIMはフェニックス市の外れの砂漠に建設が予定されている。この博物館が音楽への渴きを潤すオアシスに成長していくことを期待したい。



ビデオテープを観るテワルト館長と、
夫人で同博物館のプログラム・
ディレクターのシルヴィア・ケラーさん

